

土木配管工事仕様書

工 事 仕 様 書

第1章	総	則	2		
第1節	一般事項	3			
第2節	適用規格	7			
第3節	検査及び試験	7			
第4節	保証	7			
第2章	共	通	仕	様	8
第1節	配水管布設	9			
第3章	特	記	仕	様	11
第1節	配水管布設	12			

第 1 章 総 則

第 1 節 一 般 事 項

第 2 節 適 用 規 格

第 3 節 検 査 及 び 試 験

第 4 節 保 証

第 1 章 総 則

第 1 節 一般事項

1－1 適用の範囲

本工事は「土 木 配 管 工 事」に適用されるもので、工事仕様書、設計書、図面に
基づき施工し、本町検査員の行う検査に合格した時までとする。

1－2 施工範囲

本工事の施工範囲は工事仕様書、設計書、図面に記載され、その他必要な一切のものを
含むものとする。

1－3 工 期

本工事の着手は契約締結の翌日とし、竣工期限は令和4年12月23日とする。

1－4 適用規則

本工事は、本町契約条件、契約規則、工事請負契約書、その他本町の規定に準拠し、工
事仕様書、設計書、並びに施工図面にに基づき、本町監督員の指示に従い完全に施工しなけ
ればならない。

1－5 事業の性質

本工事は、公共事業として行うものであるから、労働基準法、職業安定法、その他関係
法令に従って施工しなければならない。

1－6 提出書類及び図書

請負人は、下記の書類及び図書を本町監督員に提出し、承認を得て、工事に着手しなけ
ればならない。

書類及び図書

1－6－1 契約時

契約締結後5日以内に本町監督員に提出しなければならない。

- (1) 施工計画書
- (2) 工事着工届
- (3) 工事工程表
- (4) 主任技術者及び現場代理人届

1－6－2 施工時

- (1) 承認図書
- (2) 工事中及び竣工写真(ファイル綴り)
- (3) 各試験成績書
- (4) 竣工図(製本)

1－7 打ち合わせ

工事着手前には、設計内容、工事工程表、その他工事との関連を、本町監督員及び関係者出席のもとに打ち合わせをし、以後、工事中も適時打ち合わせを行う。

1－8 指示及び承認

仕様書、設計書及び図面において、施工上明瞭でない個所、又は、疑義を生じた場合は、本町監督員と請負業者との協議により、決定しなければならない。

尚、協議が成立しない場合は、本町監督員の指示に従わなければならない。

1－9 請負人の負担

- (1) 軽易な事項で、仕様書、設計書並びに図面に記載されてなくても、施工上欠く事のできない材料、機器類及び作業に要する費用。
- (2) 工事施工に当たって、関係監督官庁、その他この手続きを要する時に、これに要する書類を作成して一切を代行する費用。
- (3) 軽易な事項で、工事上、障害となる支障物の除去工事によって発生した、不要物件の取り片付けに要する費用。
- (4) 工事の為、第三者に与えた損害で、請負人の責に帰すべきものの、賠償に要する費用。
又は、工事施工の為の、既設工作物に与えた損傷の復旧費用。

1－10 官公庁の手続き

工事中は、関係官公署、企業者、その他と十分協調を保ち、工事中の円満な進捗を計らねばならない。

又、工事中上記と交渉を要する時は、本町監督員に連絡し、遅滞なくその指示を受けなければならない。

1－11 工事現場管理

- (1) 工事現場には、工事名、工期、工事主体及び工事施工者の住所氏名を標示した、定められた規格の標示板を建てなければならない。

- (2) 工事現場が隣接、又は同一場所において、施工する別途工事の競合する場合には、相互に協議して、紛争を起こさないように処理しなければならない。
- (3) 工事施工中は、既設工作物に支障を及ぼさないよう、必要な保護手段をこうじなければならない。
もし、既設工作物に損傷を与えるか、又はやむをえず一時除去するなどの必要が生じた場合は、本町監督員の指示に従わなければならない。
- (4) 工事現場への一般人及び労務者の出入り、監督、風紀衛生の取り締まり並びに、火災、盗難、その他の事故防止について、請負人は責任をもって十分に管理しなければならない。
- (5) 作業員の事故防止の為、保安帽、安全衣を着用し、足場、手すり照明等、施設の整備をしなければならない。
- (6) 上記以外の事項でも、適時必要に応じて、本町監督員の指示する現場管路を行わなければならない。

1-12 現場代理人及び労務者の選定

- (1) 請負人は、現場代理人1名、及び現場主任技術者1名を定めなければならない。
但し、現場代理人は、現場主任技術者を兼任する事ができる。
- (2) 請負人は、労務者を選び秩序正しい作業をなさしめ、又、熟練を要する施工には、相当の経験を有する熟練工を使用しなければならない。
又、請負人は適正なる工事の進捗上、十分な数の労務者を配置しなければならない。
尚、請負人の労務者が本町監督員の指示に従わない時、又は、工事作業者に不相当と認めた時は、交替又は退去を命ずる事がある。
この場合、請負人は直ちに処置しなければならない。

1-13 工事報告書

請負人は、工事工程表、工事日誌、材料受払書、工事写真、労務者点検簿、材質検査表等を添えて、毎日記載すると共に、本町監督員が必要と認めた時は、遅滞なく提出しなければならない。

1-14 寸法の定義

仕様書、設計書、図面に示してある寸法は、全て仕上がり寸法である。

1-15 設計変更

本工事の内容に変更の必要を生じた場合は、本町監督員と協議の上、その事項を決定しなければならない。

但し、請負人の責により生じた、工事の増加に要する費用の増額は、一切認めないものとする。

1－16 材料及び規格

本工事に使用する機械器具類の製造に用いる部分、及び材料は全て後述(第2節適用規格)の規格に準ずるものでなければならない。

1－17 現場発生物

工事施工中に生じた現場発生物の処理は、本町監督員の指示に従わなければならない。
但し、請負者の責により処理できるものに関しては、この限りではない。

1－18 据え付け配置

据え付け配置、配管布設は、仕様書、設計書、図面並びに現場を熟知の上、詳細にこの内容を調査し、疑義を正すと共に、全工事の内容を承知の上施工する。

1－19 工事の中止

請負人が、本町監督員の指示に従わない場合、又は、不正行為のあった時は、その工事を中止させる事ができる。

1－20 現地性能試験

据え付け完了時に、本町監督員の指示により、現地性能試験を行わなければならない。

又、製造工場での試験に合格したと言えども、現地性能試験結果、不合格があった場合の製造品は、本町監督員の指示する期間内に改造、又は、手直し等を終了しなければならない。

1－21 不要材料処分

請負人は、工事が終了したらすみやかに不要材料の処分をし、後片付け、清掃を工事期間内に終了しなければならない。

第2節 適用規格

本工事の施工に際しては、下記に準拠する事。

- (1) J・I・S（日本工業規格）
- (2) 日本水道協会発行
水道工事標準仕様書
- (3) 青森県土木部発行
土木共通仕様書

第3節 検査及び試験

- 3－1 この工事に使用する機器材料の内、特に指示するものは、制作工事等に於いて本町監督員立ち合いの上、検査及び試験を行い、その試験成績表を提出する事。
- 3－2 この工事に使用する機器及び主要材料は、現場搬入の都度、本町監督員の検査を受け、これに合格したものを使用する事。

第4節 保証

保証期間は、本町監督員が工事完了と見なした日より起算し、日数を算出する。

保証期間内に発生した故障で、製品の不良、施工上のミスに起因した場合、請負人は遅滞なく故障の修理、部品の交換を行わなければならない。

その際、要する費用は、全額請負人の負担とする。

尚、保証期間外、又は、不慮の事故における故障の場合も、請負人は修理作業を遅滞なく行う事。

但し、その費用は有償とする。

第2章 共通仕様

第1節 配水管布設

第2章 共通仕様

第1節 配水管布設

1-1 一般事項

この工事は、配水管及び送水管に適用する。

1-2 材料の規格

本工事に使用する材料は、日本工業規格(J・I・S)及び日本水道協会規格(J・W・W・A)に適合しなければならない。

但し、規格に無いものについては、本町監督員と協議して決定する。

1-3 据え付け配管

(1) 配管は、仕様書、設計書、図面並びに現場を熟知の上、詳細にこの内容を調査のうえ、本町監督員の承認を得てから施工にかかる。

(2) 配管工事、及び機器の据え付けは全て、本町監督員の指示に従い後日狂いの生じないよう、確実堅固に完全なる施工をしなければならない。

(3) 工事施工に当たり、竣工後検査の困難なる個所は、中間にて本町監督員の検査を受けなければならない。

(4) 運搬、据え付け作業の順序、方法については、あらかじめ計画表を提出し、本町監督員の承認を受ける。

(5) 鋳鉄管の切断は、切断機で行う事を原則とする。

尚、異形管は切断してはならない。

(6) 管の切断は、管に対して直角に行わなければならない。

(7) 既設管との連絡

(a) 連絡工事は断水時間に制約されるので、円滑な作業が出来るよう、十分な作業員を配置し、配管材を確認し、機材、機器を十分準備し、迅速確実に施工しなければならない。

(b) 既設管の切断に先立ち、本町監督員の指示、立ち合いの上、管種及び管の所属を調べ、設計図及び示された既設管である事を確認する事。

(c) 石綿管の切断は、金のこ、又は、切断機で行わなければならない。

(8) 水圧試験

配管完了後、原則として管内に充水し、管路として所定の圧力を保持する水圧試験を行わなければならない。

(9) 通水試験

通水は、管内を十分に清掃するとともに、残存物がない事を確認しなければならない。

(10) 路面復旧

国，県，町の道路管理者の指示による。(図面参照)

(11) 切り廻し工事

給水管横断箇所、及び他企業の地下埋設物、その他家庭用排水管等の布設してある個所については、掘削及び管布設に十分注意し施工する事。

この場合、他の埋設物と同位置に送配水管がかかる時は、切り廻し工事等を施し、迷惑のかからぬよう、責任をもって工事を行う事。

第3章 特記仕様

第1節 配水管布設

第3章 特記仕様

第1節 配水管布設

1-1 一般事項

本工事施工に当たり、現地調査を十分に行い、施工図を町の監督員に提出し、承認を得ること。

1-2 配管材料の規格

名 称	規 格
G X形ダクタイル鋳鉄管	J WWA-G-1 2 0・1 2 1
同上継ぎ手及び異形管類	J WWA-G-1 2 0・1 2 1
K 形ダクタイル鋳鉄管	J I S-G-5 5 2 6
同上継ぎ手及び異形管類	J I S-G-5 5 2 7
N S形ダクタイル鋳鉄管	J WWA-G-1 1 3・1 1 4
同上継ぎ手及び異形管類	J WWA-G-1 1 3・1 1 4
配管用炭素鋼鋼管	J I S-G-3 4 5 2
同上継ぎ手及び異形管類	J I S-B-2 3 0 4
水道用硬質塩化ビニール管	J WWA-K-1 2 7 (R R)
〃	J I S-G-6 7 4 2 (T S)
同上継ぎ手及び異形管類	J WWA-K-1 3 1 (R R-F C D)
〃	J WWA-K-1 2 8 (R R)
〃	J I S-K-6 7 4 3 (T S)
ポリエチレンスリーブ	J WWA-K-1 5 8-2 0 0 5

1-3 配管材料の仕様

(1) ダクタイル鋳鉄管(内面・エポキシ粉体塗装)

適用範囲 …………… 最高使用圧力 60kg/cm²(試験圧力)

検 査 …………… 日本水道協会の検査品とする。

表 示 …………… (1) Dの記号 (6) K, N S型の記号
(2) 水の記号 (7) 呼び径
(3) I 種管及び3 種管
(4) 製造年
(5) 製造業者の略号

(2) ダクタイル鋳鉄異形管

適用範囲 …………… 最高使用圧力 30kg/cm²(試験圧力)
検 査 …………… 日本水道協会の検査品とする。
表 示 …………… ダクタイル鋳鉄管表示に曲管の場合は角度

(3) 仕切り弁(ソフトシール仕切り弁)

適用範囲 …………… 最高使用圧力 7.5kg/cm²
材 質 …………… 弁体 F C D45 E P D M
弁棒 S U S - 403
弁箱、ふた、パッキン箱 - F C D45
胴体検査 …………… ϕ 350 以下 17.5kg/㊤
フランジ両面間が伸びないように、両端部を固定し、弁を全開した状態で、上記の圧力を加えて、各部に異常があつてはならない。
面間寸法 …………… J I S - B 1 2 0 に準ずる。

1 - 4 管の明示要領

明示方法は次の通りとし、管径 350mm 以下は胴体テープのみ、管径 400mm については胴巻きテープと天端テープの使用により、識別を明らかにするものとする。

(1) 明示に使用する材料

- (イ) 塩化ビニールテープ
(ロ) 色地 色～青 文字～白
(ハ) テープの形状
 ϕ 350 mm 以下 テープの厚さ 0.15
胴巻きテープの幅 3 cm

(2) 胴巻きテープの間隔

- (イ) 管長 4 m 3 カ所／本
(ロ) 管長 5 m 4 カ所／本
(ハ) 管長 6 m 5 カ所／本

(3) 明示方法

明示方法

水 道 課	水 道 課	水 道 課
2020	2020	2020
水 道 課	水 道 課	水 道 課

(イ) 文字の大きさ タテ・ヨコ 8mm

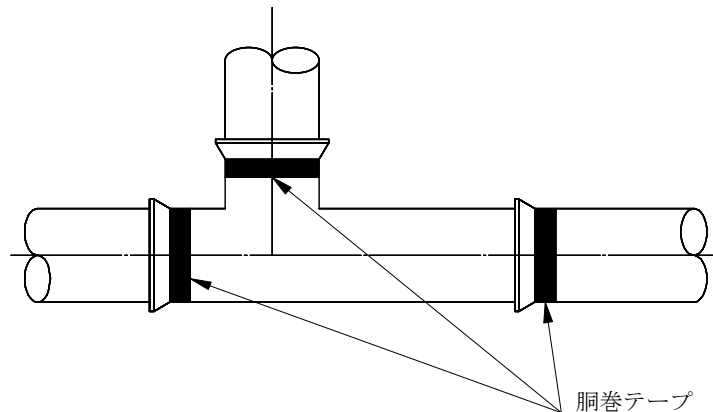
文字間隔 4mm程度とする。

(ロ) 明示年は3ヵ月ぐらいいずれでも差し支えない。

(ハ) 胴巻きテープは1回半巻きとする。

(4) 特殊部

(イ) 異形管



(ロ) 弁類は表面があり、これに表示されているので他の埋設管と区別が容易であり表示の必要は無い。

1-5 硬質塩化ビニール管

(1) ビニール管の規格

適用範囲 …… 水圧試験～常温で 40kgf/㊥の水圧をかけ、1 分間保つこと。

検 査 …… 日本水道協会の検査品とする。

表 示 …… 1) Dの記号(口径)

2) 製造年の表示

3) 製造業者の略号

4) その他

(2) 塩化ビニール管継ぎ手

(1) ビニール管の規格に準ずる。

(3) その他

給水工事に使用するその他資材については、町の基準による。(材料の規格、指定メーカー、施工方法等)

(4) ビニール管の形状について

硬質塩化ビニール管で定尺(1本 4.0m, 5.0m)ものを使用する。

1-6 ポリエチレンスリーブ

(1) ポリエチレンスリーブの規格

適用範囲	———	ダクタイル鋳鉄管埋設時に適用する。
検 査	———	日本水道協会の検査品とする。
表 示	———	1) 口径 2) 水の記号 3) 製造業者の略号 4) その他

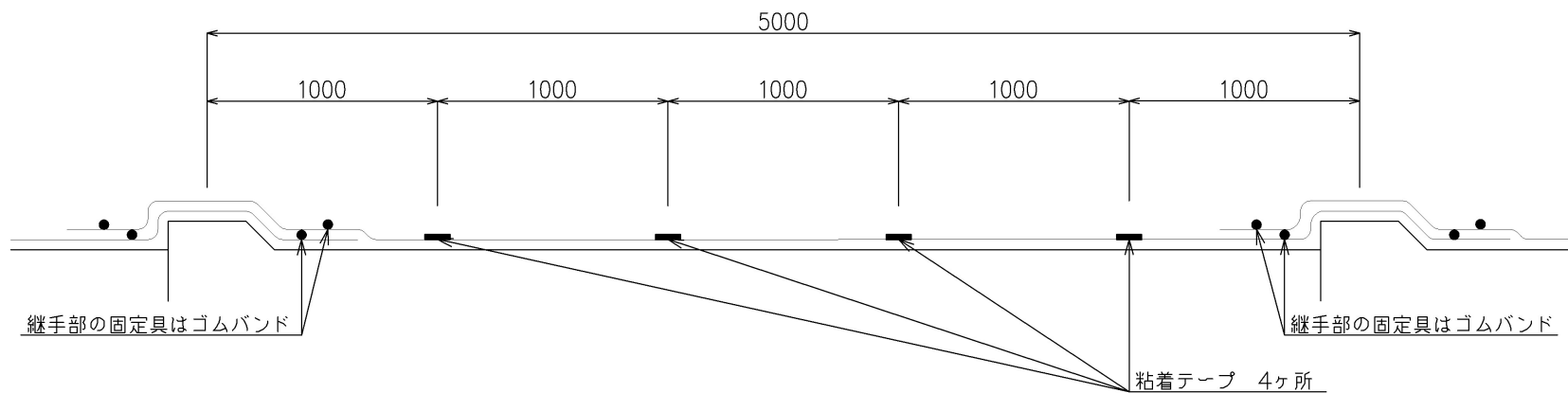
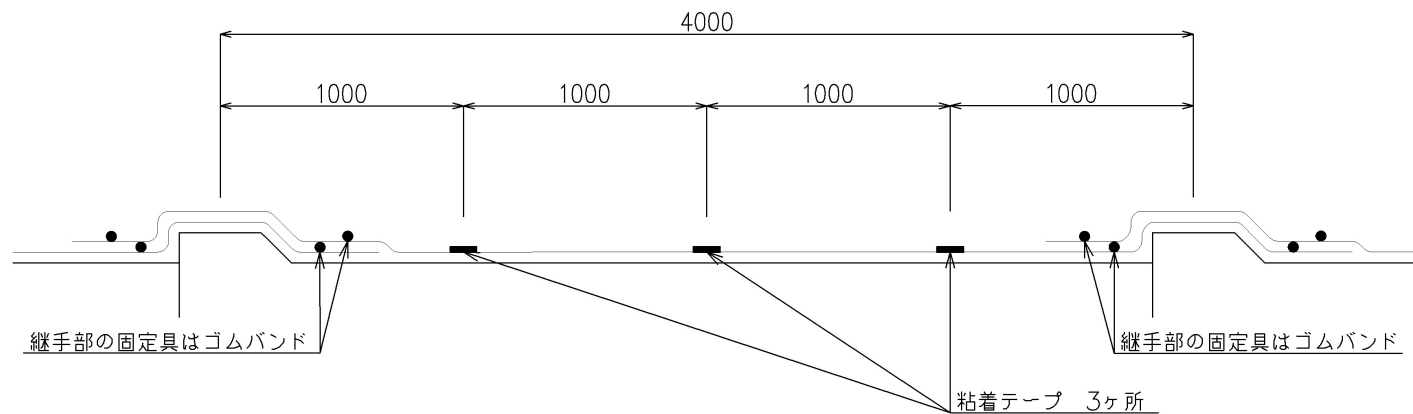
(2) スリーブの運搬及び保管

- (1) スリーブの運搬は、折りたたんでダンボール箱等に入れ損傷しないよう注意をしておくこと。
- (2) スリーブは、直射日光を避けて保管すること。

(3) スリーブの被覆

- (1) スリーブの被覆は、スリーブを管の外面にきっちりと巻き付け余分なスリーブを折りたたみ、管頂部に重ね部分がくるようにすること。
- (2) 管継手部の凸凹部にスリーブがなじむように施工すること。
- (3) 管軸方向のスリーブ継なぎ部分は、確実に重ね合わせること。
- (4) スリーブの固定は、粘着テープあるいは固定用バンドを用いて固定し、管とスリーブを一体化すること。

ポリスリーブ固定詳細図



- ・ 固定バンドの場合 1ヶ当り 2条とする。
- ・ 粘着テープの場合 1ヶ当り 胴巻の1.5周巻きとする。